

汗で汚れた夏物衣料を扱うことが多くなる時期は、水洗いによる事故が多く発生する傾向にあります。

水洗いによる事故を防ぐためには、どういった処理がその製品に対して適切なものの判断が求められます。今回はその典型例を紹介します。

監修／クリーニング総合研究所

クリーニング
処理方法
に注意

素材
特性
に注意

衣類の状態

ウエットクリーニングを行い、自然乾燥したところ、ワンピース上部の白地部分が着色したようになっていた。

事故の防止対策

りの原因になりますのでお避け下さい。」との記載がある。

現品の場合、自然乾燥についての表示がないことから、染色状態のチェックや表示責任者への連絡・確認などにより、自然乾燥の可否を判断することが求められる。

また、利用者の依頼により表示と異なる処理を行うのであれば、その処理によって生じる不具合の可能性などについて利用者の了承

原因

ウエットクリーニング後の自然乾燥に時間がかかってしまったことで黒地部分から移染が生じた可能性が推測される。

付記用語には、「湿ったまま長時間放置しますと、色落ちや色移

を得てから処理を行うことが望まれる。

な理解および了解を得てから処理すること。

2. 環境への配慮

過去にテトラクロロエチレンによるドライクリーニングを実施したことが明らかな洗たく物は、テトラクロロエチレンが洗たく水中に溶出して排出される可能性があるため、ウエットクリーニングを避けること。

3. 素材別の配慮

●毛は、湿潤状態で機械作用が加わることでフェルト収縮するため、水洗いの対応がされていない製品に対しての機械力はできる限り小さくすること。

●絹は、白化しやすいので特に湿潤時の摩擦を極力抑えること。

●レーヨンなどは、乾燥時と比べて湿潤状態での引張強度が大きく低下するため、過度の張力をかけないこと。

水を使用する場合の配慮事項

汗の除去に部分的な水性処理やウエットクリーニングを選択する場合には、染色堅ろう度のチェックに加えて、次のような事項に配慮を必要とする。

1. 水による弊害への配慮

洗たく物によっては、収縮、パツカリング（縫い目付近に細かなシワが生じる現象）、移染、色泣き、変退色、各種加工の脱落など、修正不可能な状態に変化することがある。

このため、予備試験などによる確認を厳重に行うとともに、水による処理を行うことで想定される不都合については、利用者の十分



白地部分が斑に着色



白と黒のツートンカラーのワンピース

■製品情報

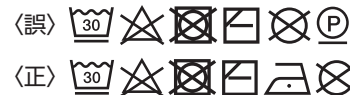
品名…ワンピース
素材…ポリエステル95%
ポリウレタン5%



■処理方法…ウエットクリーニング、自然乾燥
ハンドアイロン仕上げ

お詫びと訂正のお知らせ

本誌2024年5月号掲載の「衣料管理情報」で、取扱表示の記載内容に間違いがありました。訂正してお詫び申し上げます。



●「衣料管理情報」は全ク連ホームページからPDFをダウンロードいただけます。全ク連HP <https://www.zenkuren.or.jp> 「お知らせ」→「衣料管理情報」